

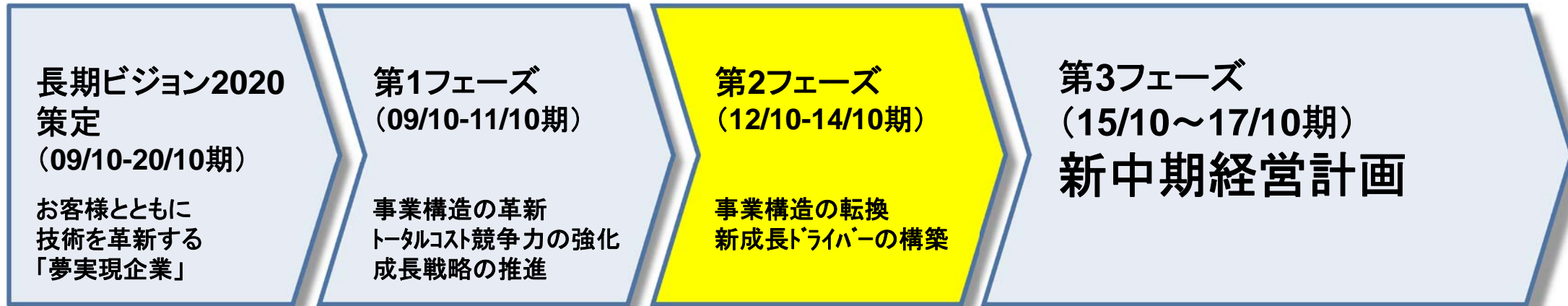


中期経営計画説明資料

2014年12月11日(木)
株式会社オハラ(証券コード:5218)

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

中期経営計画の振り返り



前中期経営計画の総括（第2フェーズ）

- 事業構造の転換
- 新成長ドライバーの構築

光事業

- グローバル光学ガラス生産体制として、台湾に第3拠点を設立し、日本・台湾・中国の3極体制構築
- ガラスモールドレンズの販売開始

エレクトロニクス事業

- ハードディスク用ガラス基板事業から撤退
- 極低膨張ガラスセラミックス増産投資着手
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックスの事業化に向けた取り組みを継続

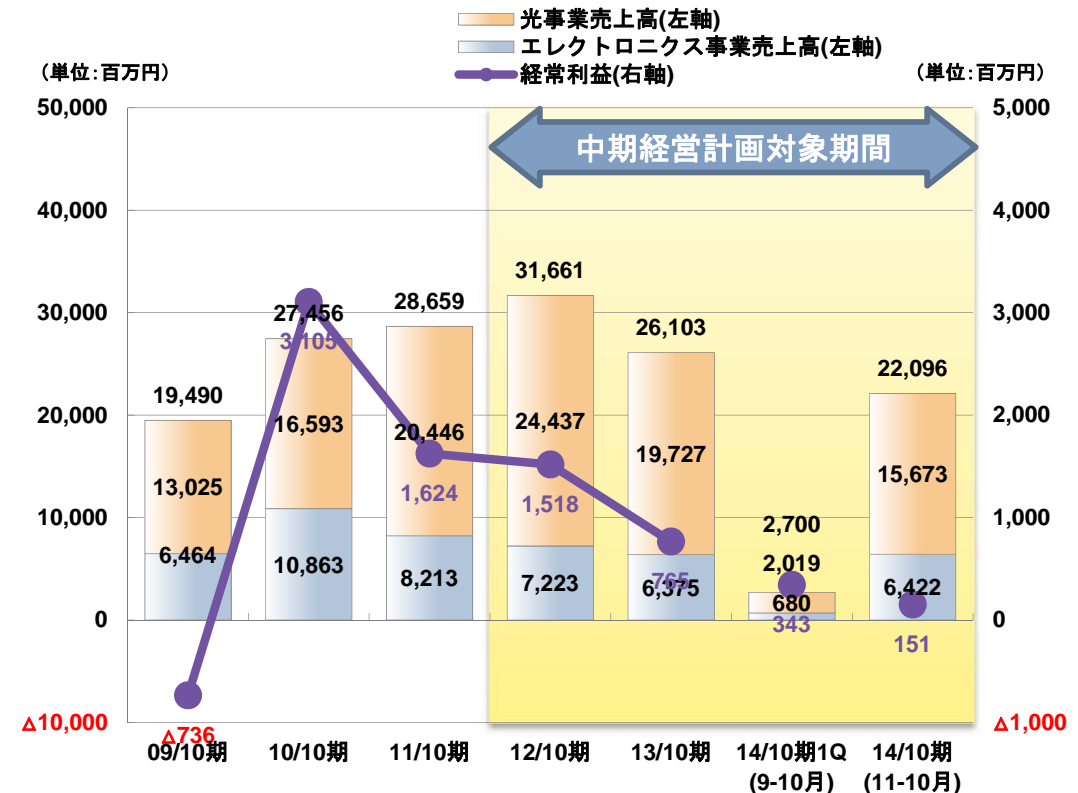
過去業績の振り返り

- ◆ 売上高、経常利益ともに環境変化激変で目標値に対し未達
- 光事業はデジカメ市場停滞、エレ事業はHD撤退等で売上規模縮小
- 総資産経常利益率 (ROA) 未達、総資産有利子負債率は達成

経営指標

	修正目標 (12年12月公表)	実績 (14/10期11-10月)
売上高	350億円以上	220億円
経常利益	29億円以上	1億円
総資産経常利益率 (ROA)	5.0%以上	0.3%
総資産有利子負債率	15.0%以下	14.0%

業績推移



新中計の前提条件(15/10-17/10)

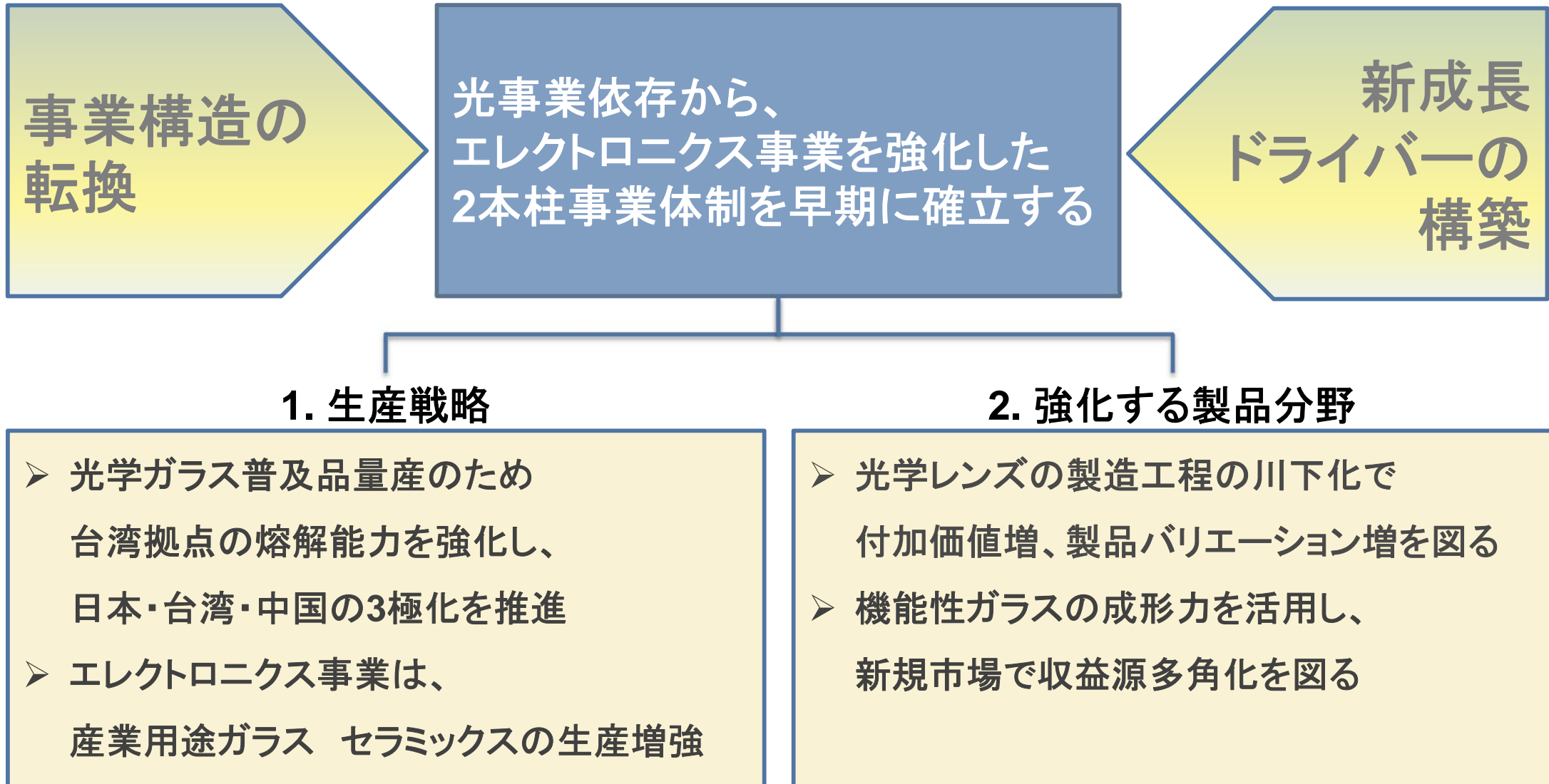
<外部環境>

- ◆ 円安傾向は当面継続
(前提為替レートは、米ドル110円、ユーロ135円)
- ◆ レアアース原料価格は安定
(為替変動による影響除く)

<関連市場動向>

- ◆ 光学機器市場は、一眼レフの成長が見込めない一方、
4K・8Kといった高精細化は進展、
監視カメラや車載カメラも数量増
- ◆ エレクトロニクス関連市場は、半導体、液晶パネル堅調、
大型天体望遠鏡など、宇宙・天文関連産業も拡大

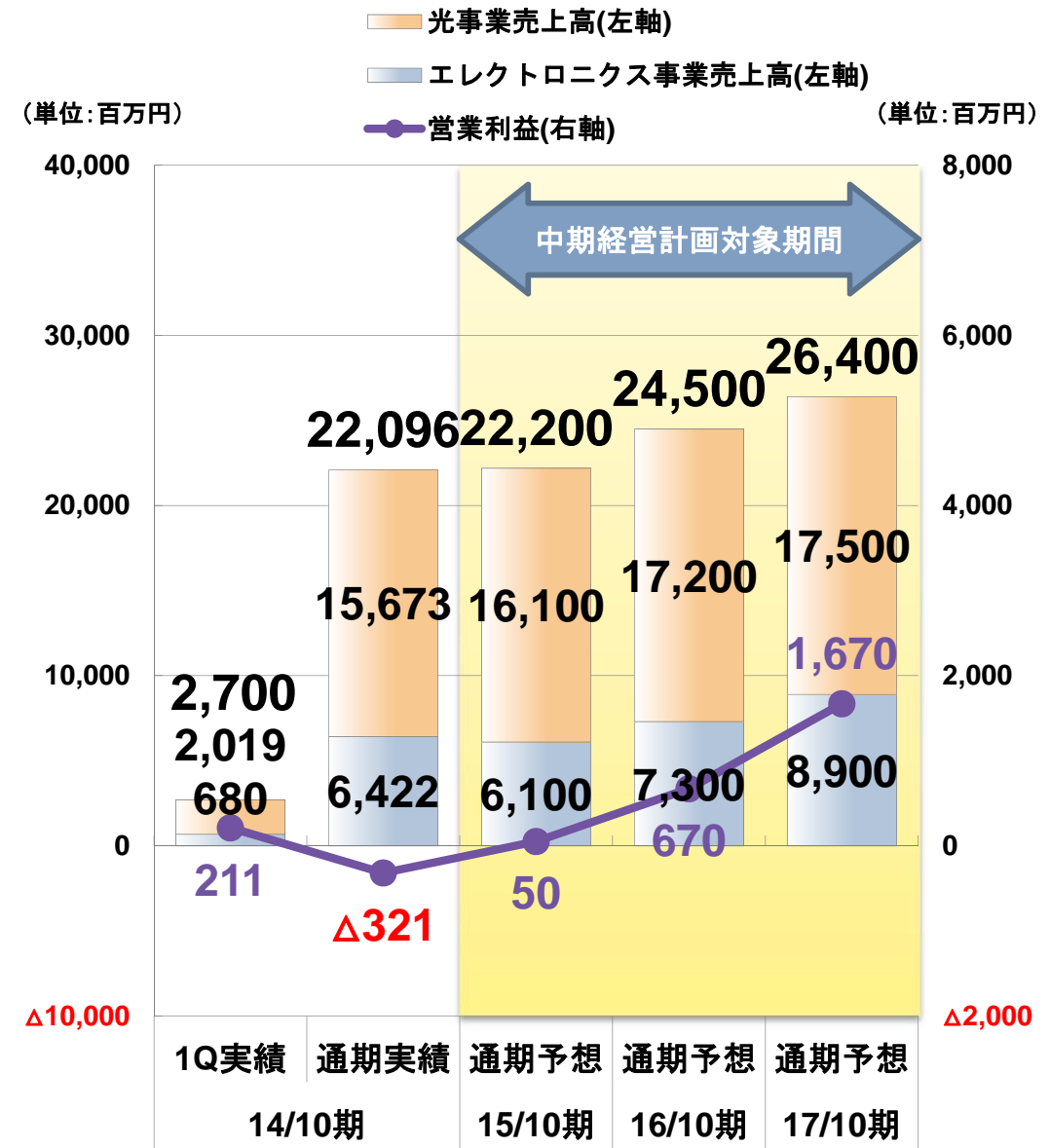
基本戦略



経営指標

	17/10期 目標
売上高	260億円以上
営業利益	16億円以上
総資産有利子負債率	15%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	30%以上

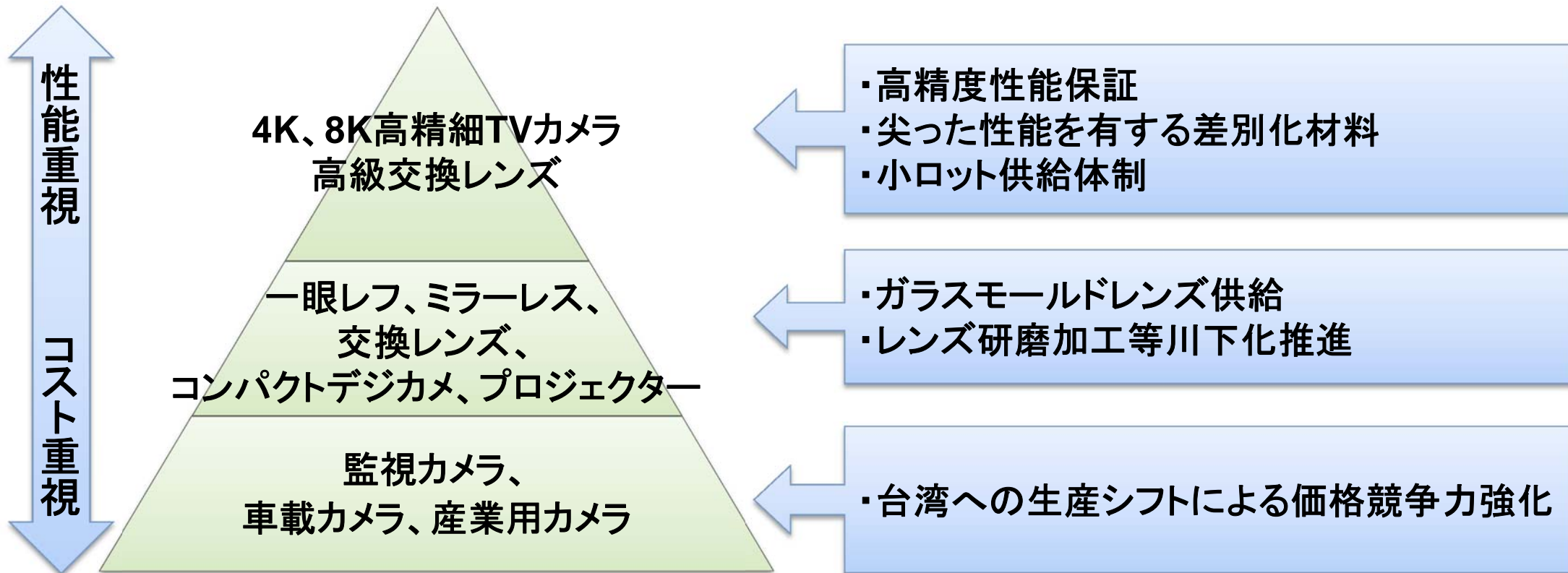
3年間の設備投資総額: 53億円



光事業の基本方針

既存のデジタルカメラ向け光学レンズ素材は需要横ばい、
量産用光学ガラスの海外生産移管と、国内での小ロット生産と
川下化(レンズ加工)で付加価値向上を図る

◆光学機器用レンズ材の需要は2極化

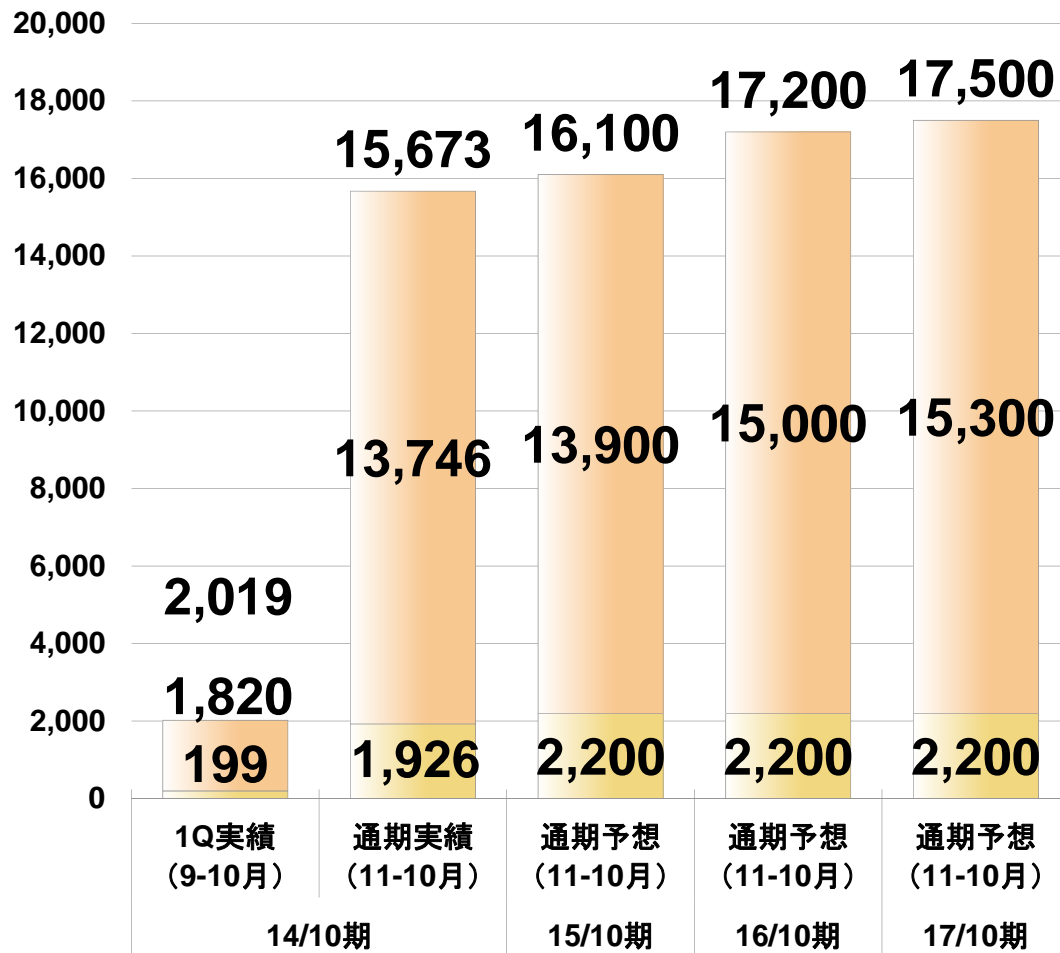


光事業見通し

売上高

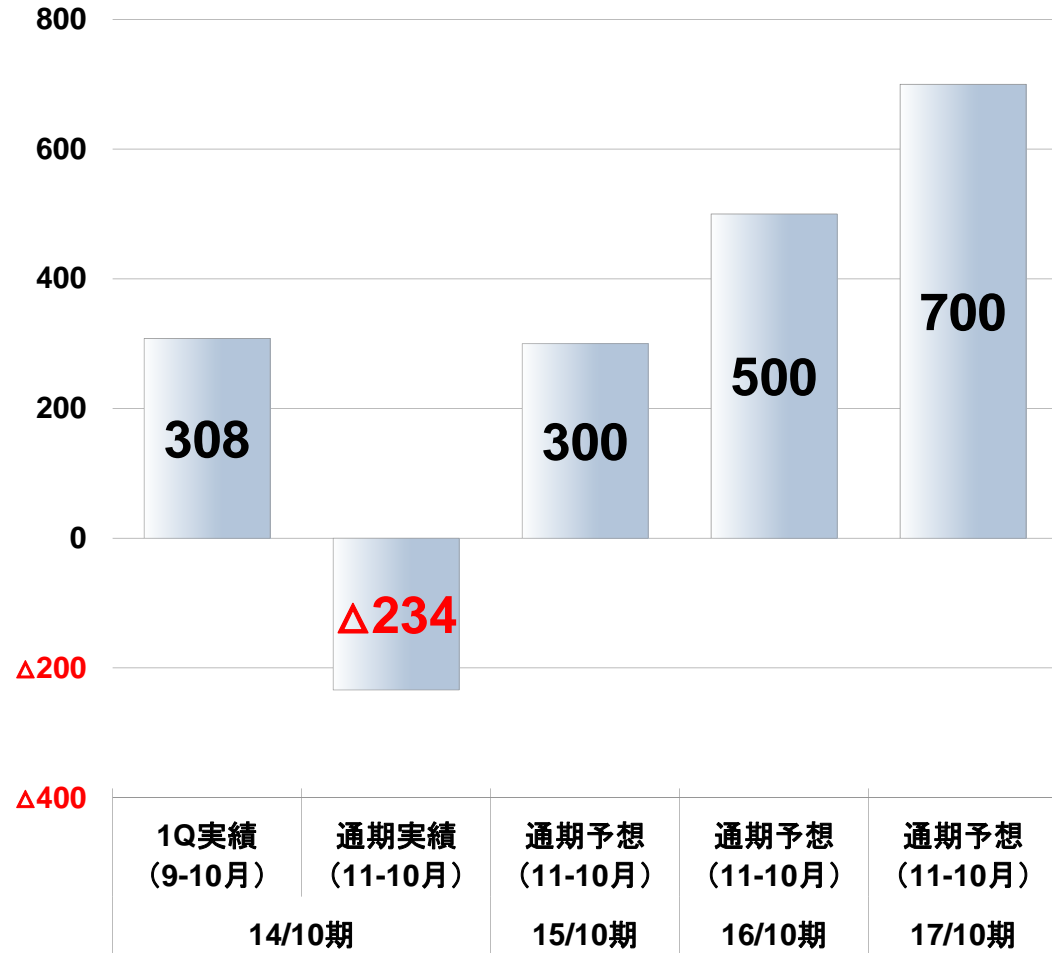
(単位:百万円)

■ 光学プレス品
■ 光学ブロック品



営業利益

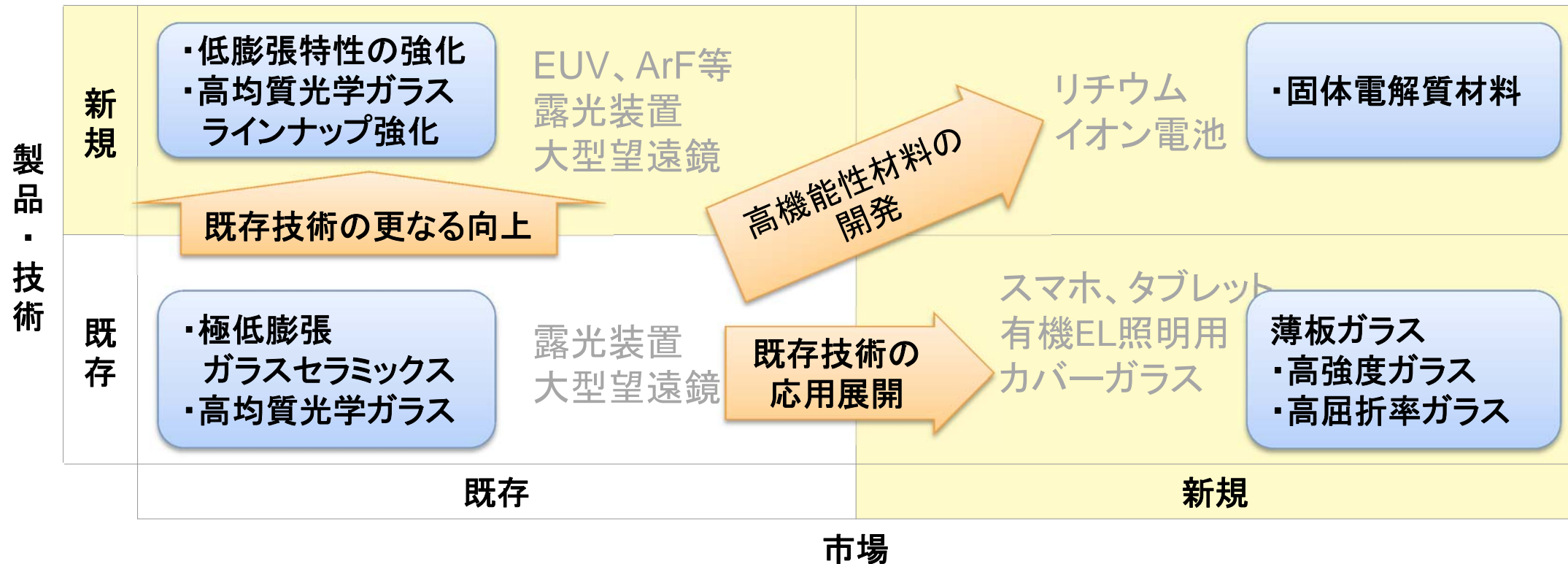
(単位:百万円)



エレクトロニクス事業の基本方針

特殊ガラスの需要は堅調、既存製品を伸ばしつつ、
既存製品の改良と新市場向け新製品の開発を推進、
収益源の多角化を図る

◆濃い技術力を確立し、新規製品、新規市場へ

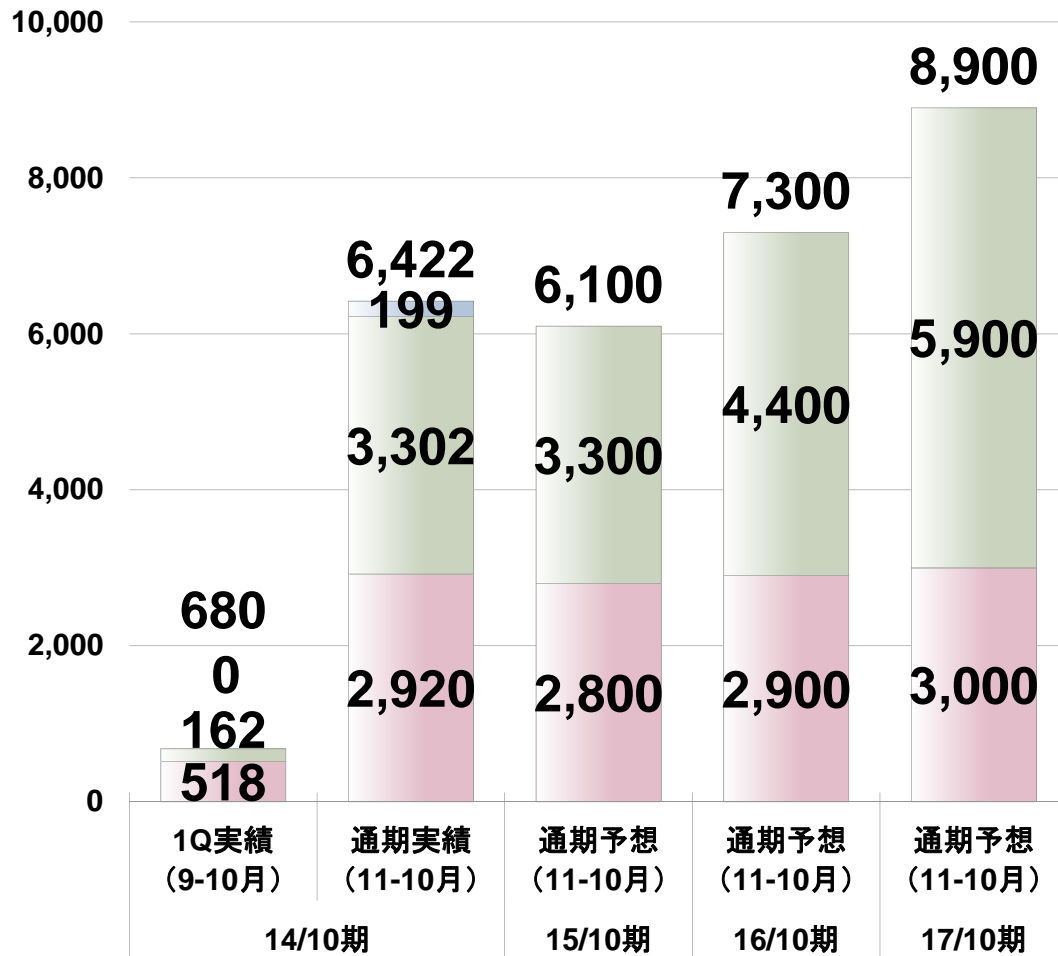


エレクトロニクス事業見通し

売上高

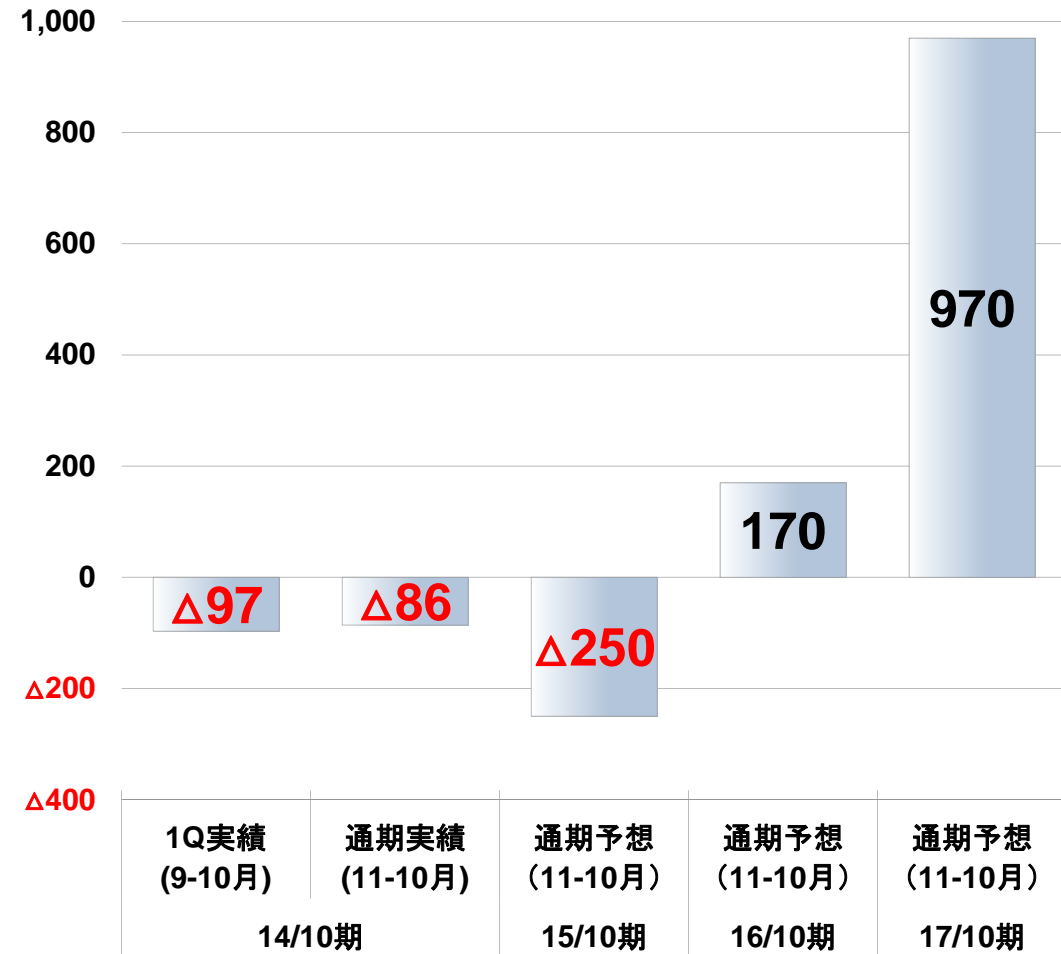
(単位:百万円)

- HD用ガラス基板材
- 特殊ガラス
- 石英ガラス



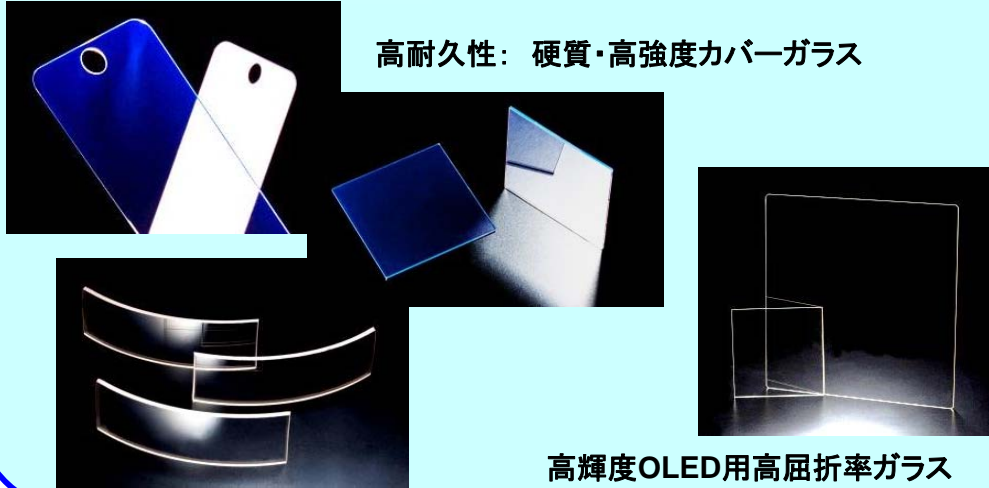
営業利益

(単位:百万円)



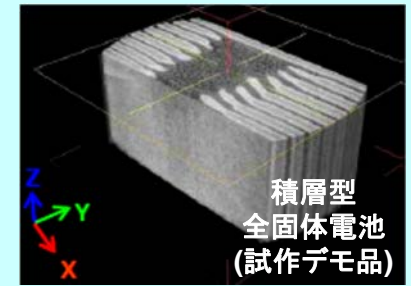
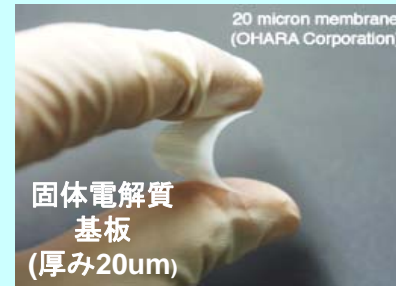
エレクトロニクス事業開発の方向性

薄板ガラスビジネス



次世代電池向けビジネス (エネルギー)

金属リチウム空気電池
および全固体電池向け固体電解質



スマートライフ分野向けビジネス (環境・安全・快適・健康)

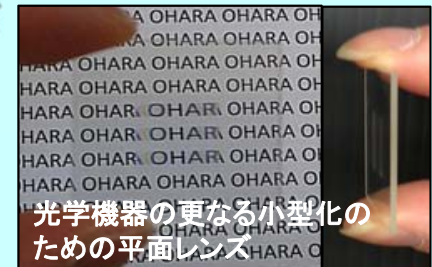
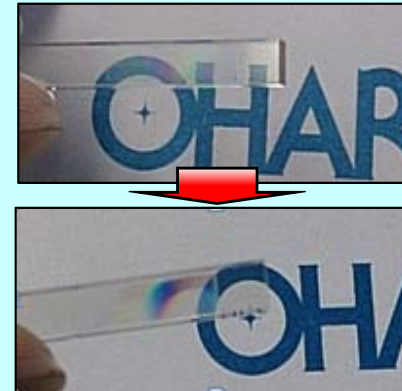
監視・車載カメラ向け親水性処理レンズ

産業用空気清浄機向け
光触媒フィルター



次世代光学素子ビジネス (光・エレクトロニクス融合領域)

ウェアラブル機器向けガラス内部
形成ハーフミラー・プリズム



OHARA